

市町村名	中城村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	防災体制整備事業					
担当部署名	総務課	事業実施(予定)年度 平成26年～令和2年度					
		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所					
		沖縄振興基本方針 該当箇所					
事業内容	災害時における住民及び観光客の安全を確保するため、災害時に村民や観光客等が避難所生活を送ることとなった際に必要となる生活物資や備蓄品等の整備を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(2 年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	(a) 当初予算額	7,136	6,976	700	3,579	2,020	
	(b) 予算現額	9,944	6,976	700	3,579	2,020	
	(c) 増減額(b-a)	2,808	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
	A. 計(b+d)	9,944	6,976	700	3,579	2,020	
	B. 執行済額	9,315	5,133	700	3,161	1,378	
	うち交付金充当額	7,452	4,106	559	2,528	1,102	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	93.7%	73.6%	100.0%	88.3%	68.2%	
予算の状況の説明	不用額642千円については、委託及び備品購入契約の指名競争入札による契約残等によるものであり、事業については当初計画通りに行われ、予算は適正に執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	敷きマット40セット 照明器具の整備 4台	目標 ()	()	()	(40セット 4台)		
	実績				40セット 4台		
達成状況説明	当初の活動目標どおり、災害時に村民や観光客等が避難所生活を送ることとなった際に必要となる生活物資や備蓄品等の整備を実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(H28年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)	
	敷きマット備蓄完了 照明器具の整備完了	目標	(40%)	(60%)	(整備完了)	(整備完了)	(-)
		実績		60%	整備完了	整備完了	
	整備した防災マット及び照明機器を活用した避難訓練(2回以上/年)を実施し、本事業のあり方について検証する。	目標	()	()	()	()	(2回以上)
		実績					
	進捗状況説明	必要な生活物資や備品の整備を行い災害時の避難所運営及び初動体制の強化ができたことで、安心した避難所生活環境の確保、また効率的な災害対応が可能となった。					

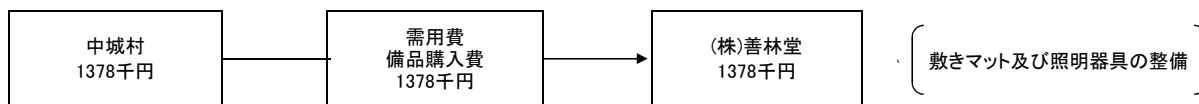
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	住民や観光客の更なる安心安全を確保するためには、津波や高潮、土砂災害など、複合災害による甚大な被害も予想されることから、様々な災害に迅速に対応するための防災資機材整備や生活物資等の備蓄が必要となっている。	水路の氾濫や集中豪雨などの水害時の対策が課題であることから、水害時にも迅速に対応ができるよう備品の拡充を行う必要がある。

今後の取り組み方針

地球温暖化に伴う気候変動の影響により、大雨や短時間豪雨の発生頻度や大雨の降水量などが増大、道路冠水や住家等への浸水被害が生じているため、水害時にも迅速に対応できるよう防災備品の拡充を行い、住民や観光客の更なる安心安全確保のため防災体制の強化を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位：千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
1,378	1,378	1,102	276	0



資金の 使途の 流れ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○請負業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予定していた事業内容はすべて実施された他、活動目標・成果目標も達成しているため、予算規模は適切であったと考える。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 中城村

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

Table with project details: 事業番号・事業名 (1-2 災害時避難所給電システム導入事業), 担当部署名 (総務課), 事業実施(予定)年度 (令和元年度), 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所, 沖縄振興基本方針該当箇所, 第3章-2-(4)-イ (災害に強い県土づくりと防災体制の強化), III-10-(2)

事業内容 CO2排出量の削減を図るため、また、災害時の住民及び観光客等の避難所における安心安全の確保を図るため、災害発生時に避難所への電力供給も可能な電気自動車及び機器を整備する。

効果発現年度 □当年度 ■後年度(2 年度)

実施方法 ■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()

Table with budget and execution status: 予算額・執行額 (単位:千円) for H27, H28, H29, H30, and R1. Includes rows for (a)当初予算額, (b)予算現額, (c)増減額, (d)繰越額, A.計, B.執行済額, うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率(%)(B/A), and 予算の状況の説明.

Table with activity goals and achievement status: R1活動目標(指標) and 達成状況 for 電気自動車購入 and 可搬型給電器購入. Includes 当初の活動目標どおり, 災害発生時に避難所等へ電力供給も可能な電気自動車及び機器の整備を実施することができた.

Table with results and progress status: R1成果目標(指標) and 進捗状況 for 電気自動車の整備完了, 可搬型給電器の整備完了, and CO2削減効果. Includes 目標値(R2年度) and 1,440kg-CO2/年の削減.

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	災害に伴う停電が発生した場合、避難所等の運営に支障をきたしかねない状態だったが、停電時にも電力供給が可能となり、避難所運営体制を強化することができた。	災害時に効果的な電力供給機器の活用ができるよう行政と地域の連携が必要である。
今後の取り組み方針		
今回整備した電力供給機器を防災訓練や防災講演会等で活用し、地域住民の防災意識を高め、かつ円滑な避難所運営ができるよう行政と地域が連携することで、住民や観光客等の安心安全な環境確保に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	16,103	16,103	12,882	3,221	0
<pre> graph LR A[中城村 16,103千円] --> B[備品購入費 16,103千円] B --> C[琉球日産自動車(株) 13,468千円] B --> D["(株)ヨシダ機器サービス 2,635千円"] C --- E[電気自動車購入] D --- F[可搬型給電器購入] </pre>					

資金の 使途の 流れ・ 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○請負業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予定していた事業内容はすべて実施された他、活動目標・成果目標も達成しているため、予算規模は適切であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	省エネ化推進整備事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化		
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	令和元年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-10-(2)		
事業内容	環境に優しい(温暖化対策)村づくりを推進するため、公共施設等の照明器具にLEDを導入する。 今年度は中城中学校体育館照明のLED取り換え工事を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和2年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況 (a)当初予算額 (b)予算現額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A.計(b+d)						9,000
							7,414
							▲1,586
							0
							7,414
	B.執行済額						7,414
	うち交付金充当額						5,931
	次年度繰越額						0
	執行率(%) (B/A)						100.0%
予算の状況の説明		当初予算の範囲内で、適切に事業を執行できた。 予算の減額については、入札残が発生したため減額となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	中学校体育館LED導入工事の実施		目標 ()	()	()	(実施)	
			実績			実施	
達成状況説明	事業スケジュールに基づき、令和元年度中でLED照明器具導入工事を竣工することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(R1年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)
	工事の完了		目標 ()	()	()	(完了)	()
			実績			完了	
	【R2成果目標】 LED導入による温室効果ガス(CO2)排出量の削減効果(CO2削減▲12.8t/年)		目標 ()	()	()	(-)	(12.8t)
			実績				
	進捗状況説明	工事が完了し既存照明より温室効果ガス(CO2)排出量の少ないLED照明を導入することができた。					

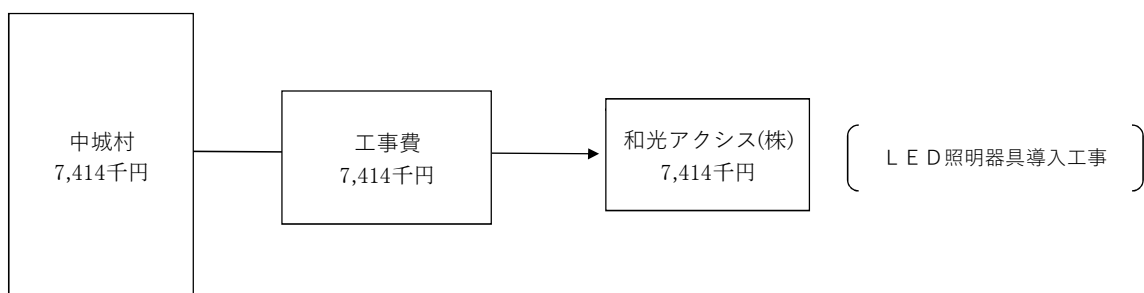
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	環境に優しい村づくりを推進するため温室効果ガス(CO2)排出量の少ないLED照明を導入することができたが、より環境に優しい村づくりを推進していくためには、その他公共施設の温室効果ガス削減にも着手していかなければならない。	温室効果ガス(CO2)排出量が削減されているか年間を通してモニタリングを行うとともに、その他公共施設についてもLED照明を導入し温室効果ガス削減を実施していく必要がある。

今後の取り組み方針

年間を通して温室効果ガス削減量の検証を実施し、継続して温室効果ガス削減の見込まれる公共施設へのLED照明導入を実施していくことで、環境に優しい村づくりに取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
7,414	7,414	5,931	1,483	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指名競争入札により業者を決定しており、適正であった。 ○予算規模については不用額が1,586千円あったが、入札残によるものであり適正な金額であったと考えている。 ○費目・使途について事業目的達成に必要な工事費に充当し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村
------	-----

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	吉の浦公園等施設機能強化整備事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア 国際的な沖縄観光ブランドの確立
担当部署	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所
				Ⅲ-1-(1)

事業内容 地域振興及び観光誘客を図るため、健康づくりや文化振興の拠点として吉の浦公園等施設の機能強化整備を実施する。また、プロサッカーチームの合宿誘致を図るため、陸上競技場の芝生の適正管理等を行う。

効果発現年度 ■当年度 ■後年度(R2 年度)

実施方法 ■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()

		H28年度	H29年度	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	7,066	41,008	22,372	-	135,321
		(b) 予算現額	14,194	54,039	21,422	-	107,342
		(c) 増減額(b-a)	7,128	13,031	▲ 950	-	▲ 27,979
		(d) 繰越額	0	0	0	2,742	0
		A. 計(b+d)	14,194	54,039	21,422	2,742	107,342
		B. 執行済額	14,148	54,307	18,684	2,710	107,342
		うち交付金充当額	11,318	43,445	14,947	2,168	85,873
		次年度繰越額			2,742		
		執行率(%) (B/A)	99.7%	100.5%	87.2%	98.8%	100.0%
		予算の状況の説明	減額が生じたが入札残によるものであり予算は適切に執行された。				

活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況			
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
ごさまる陸上競技場芝生の適正管理	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)
	実績	実施	実施	実施	実施
テニスコート機能強化整備の実施	目標	(-)	(-)	(-)	(実施)
	実績				実施
吉の浦会館トイレ機能強化整備の実施	目標	(-)	(-)	(-)	(実施)
	実績				実施
吉の浦体育館照明をLEDに整備の実施	目標	(-)	(-)	(-)	(実施)
	実績				実施
達成状況説明	・吉の浦公園等機能強化整備事業について、当初の目標どおり、ごさまる陸上競技場芝生管理業務委託、テニスコートフェンス改修・倉庫新築・備品購入、体育館LED取替、吉の浦会館トイレ改修・増設を実施し工事完了することができた。				

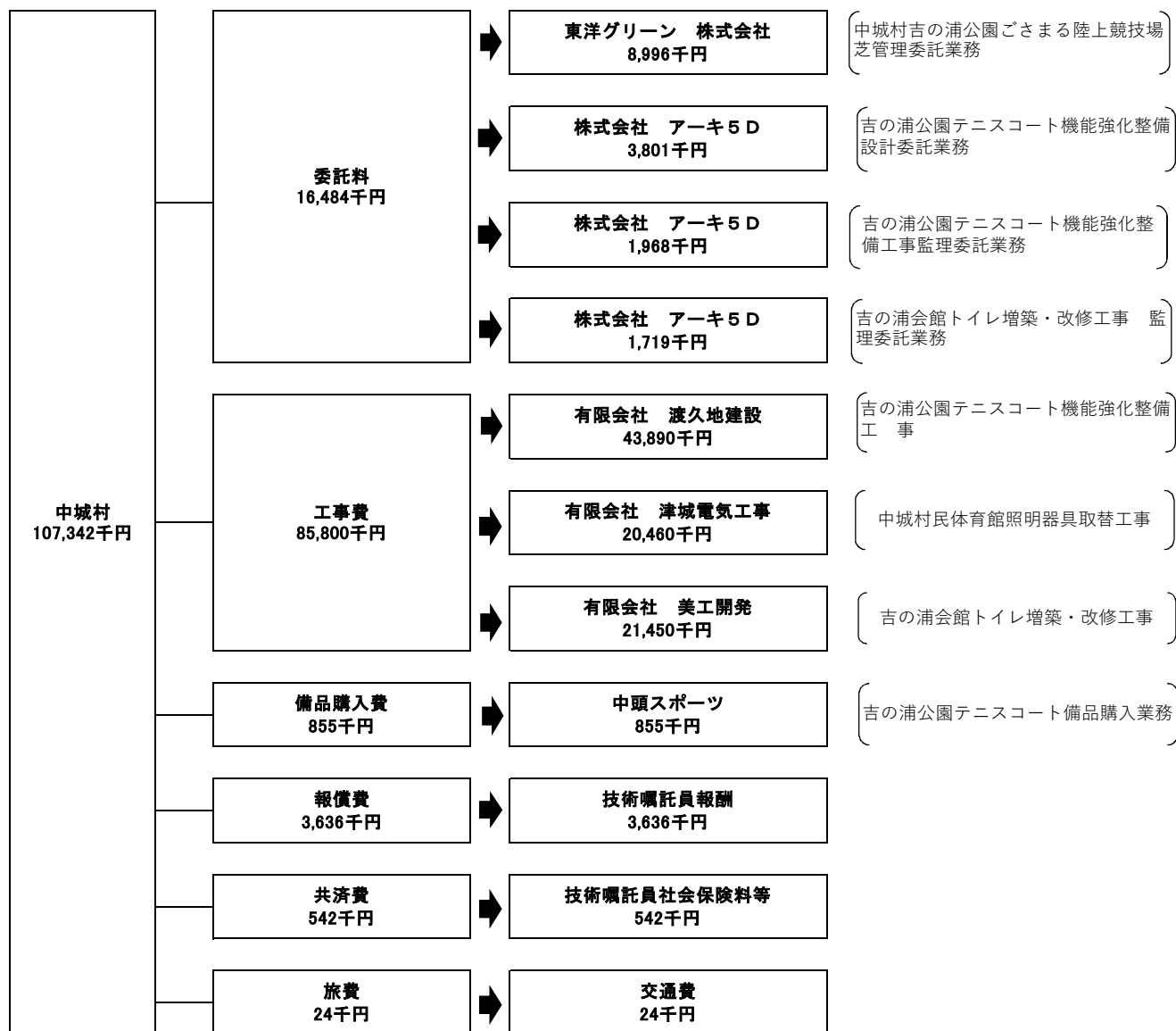
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1 成果目標 (指標)		基準値 (年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (R2年度)
	プロサッカーチームの合宿誘致件数: 2件	目標	()	(2件)	(2件)	(2件)	(-)
	実績			2件	2件	2件	
テニスコート機能強化整備完了	目標	()	(-)	(-)	(完了)	(-)	(-)
	実績				完了		
吉の浦会館トイレ機能強化整備完了	目標	()	(-)	(-)	(完了)	(-)	(-)
	実績				完了		
吉の浦体育館照明LED整備完了	目標	()	(-)	(-)	(完了)	(-)	(-)
	実績				完了		
【R2成果目標】 整備完了後1年目(R2年度)のテニスコート利用者数:約7,300人以上	目標	()	(-)	(-)	(-)	(7,300人)	(7,300人)
	実績						
【R2成果目標】 利便性が確保されたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方について公園および会館利用者へのアンケートで検証する。	目標	()	(-)	(-)	(-)	(80%)	(80%)
	実績						
【R2成果目標】 整備完了後1年目(R2年度)の大会開催10件以上、利用者40,500人:以上	目標	()	(-)	(-)	(-)	(10件 40,500人)	(10件 40,500人)
	実績						
進捗状況説明	適正な芝管理を継続してきたことでプロサッカー2チームのキャンプ受入を目標通り実施し観光誘客を促進することができた。テニスコート、体育館機能強化及びトイレ増設改修を目標どおり整備できたことで施設利用者の利便性を向上させることができた。						

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>(プロサッカーキャンプ受入) 良質な状態の芝を維持できているため、プロサッカーチーム受入数の目標は達成しているが、芝管理は専門性が高く、継続して管理委託を行っていかなければならない。</p> <p>(テニスコート、体育館機能強化及びトイレ増設改修) 施設の機能強化が図られたことから、利用拡大に向けたPRが重要となる。</p>	<p>(プロサッカーキャンプ受入) 毎年キャンプ受入れ前に2か月程芝生の養生期間が必要なため、利用者の理解を得なければならない。その為、事前に関係団体との調整、連携する必要がある。</p> <p>(テニスコート、体育館機能強化及びトイレ増設改修) 村HPや広報での周知だけでなく、関係団体とも連携し利用拡大に向けPRしていく必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>(プロサッカーキャンプ受入) 良質な芝の適正管理を継続して実施し、関係機関と連携しながら受入体制の強化に取り組むことで、プロサッカーチームキャンプの定着化を図り観光誘客を促進する。</p> <p>(テニスコート、体育館機能強化及びトイレ増設改修) 施設機能強化による利便性向上について村HPや広報で周知するとともに、村体育協会やスポーツ推進協議会等の関係団体と連携し、各種大会での活用を促す等、利用拡大に取り組み、地域振興を図る。</p>		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
107,342	107,342	85,873	21,469	



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○設計、工事、備品購入について、指名入札を行っており、選定にあたっては妥当であったと考えている。また芝管理委託業務については、サッカー芝管理の専門事業者と地方自治法施行令に基づき随意契約しており、妥当であったと考えている。 ○予定していた事業内容はすべて実施された他、活動目標・成果目標も達成しているため、予算規模は適切であったと考える。 ○費目、用途については、現場、利用者意見の中から精査し、精算段階においても検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		中城村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-② 観光客誘客促進事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア 国際的な沖縄観光ブランドの確立		
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)		
事業内容	地域の伝統芸能の継承及び観光誘客を図るため、「世界遺産中城城跡プロジェクトマップ」及び「中城村護佐丸まつり」を開催する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	23,622	33,160	15,000	15,000	31,452
		(b) 予算現額	22,132	42,098	12,468	15,000	31,452
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,490	8,938	▲ 2,532	0	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	22,132	42,098	12,468	15,000	31,452
		B. 執行済額	22,044	40,491	12,468	13,790	29,190
		うち交付金充当額	17,634	32,392	9,974	11,032	23,351
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	99.6%	96.2%	100.0%	91.9%	92.8%
	予算の状況の説明	計画的な予算執行に努め、業務を実施することができた。不用額は実績に応じた精算によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	観光振興イベントの開催	目標	(開催)	(開催)	(開催)	(開催)	
		実績	開催	開催	開催	開催	
	達成状況説明	世界遺産を活かした観光イベントを目標どおり実施することができ(11/23、24の2日間)、観光客の誘客促進に繋がった。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(24年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	プロジェクトマップ来場者数	目標	(5,352人)	(10,000人)	(11,000人)	(9,300人)	()
		実績	/	10,140人	8,421人	6,675人	/
	伝統芸能団体出演者数	目標	()	()	(31人)	(35人)	()
		実績	/	/	37人	38人	/
	護佐丸まつり来場者数	目標	(9,470人)	()	()	(9,500人)	()
		実績	/	/	/	4,820人	/
	伝統芸能団体出演者数	目標	()	()	()	(155人)	()
		実績	/	/	/	161人	/
		進捗状況説明	各イベントにおいて、期間中に雨天が続いたことや開催前に台風が接近していたことから、目標を下回る結果となってしまったが、出演者が自主的にSNSでイベント周知を行っていたことやメディアにも取り上げられた事で、来場することができなかった方へも本村の観光資源である中城城跡をPRすることができた。 また、イベントに伝統芸能や歴史文化に係るステージを盛り込む事を継続し実施してきたことで出演団体数が増え、伝統文化及び歴史文化継承促進を図ることができた。				

	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・台風の影響等により悪天候と重なる形でのイベント開催となってしまう、各イベントにおいて目標来場者数を下回る結果となったが、InstagramやTwitter等で出演者及び関係者が自主的にイベントを周知していたこと、またメディア露出もあったことから世界遺産中城城跡をより多くの人に知ってもらう事ができたと考えられる。 ・伝統芸能や歴史文化のステージには多くの村民が参加し継承促進に繋げることができた。また、来場者にはステージを通して中城村の伝統、歴史に触れてもらうことで村の文化的な魅力も伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者アンケートを活用し、効果的な広報活動、また新たなターゲット層を模索していく必要がある。 ・今後も多くの伝統芸能団体に出演してもらうためには、自治会等の理解や協力が必要である。

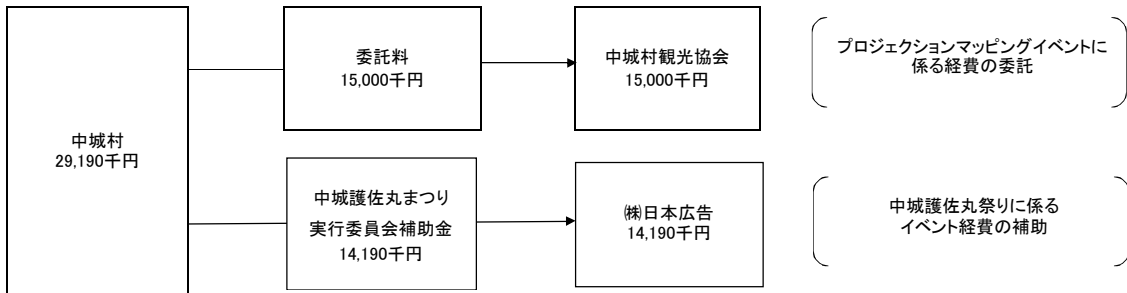
今後の取り組み方針

・来場者アンケートを分析し、新規来場者を獲得するためのアプローチ方法を検討するとともに、イベント内容の充実を図ることで来場者数の増加に取り組む。

・中城村文化協会や各芸能団体の活動を継続させるため、各種助成や演舞等を発表できる場の創出に協力し各団体の会員増に繋げるとともに、イベントの検討段階から参加してもらい、イベント開催の意欲向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位：千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
29,190	29,190	23,351	5,839	0



資金の 使途の 流れ・ 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先は観光振興に資する団体を選定しており、支出先として妥当であると考えます。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○計画していた事業内容は実施され、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みても、予算規模は適正であったと考えます。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、額の確定・精算時において支出等に関する書類により事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

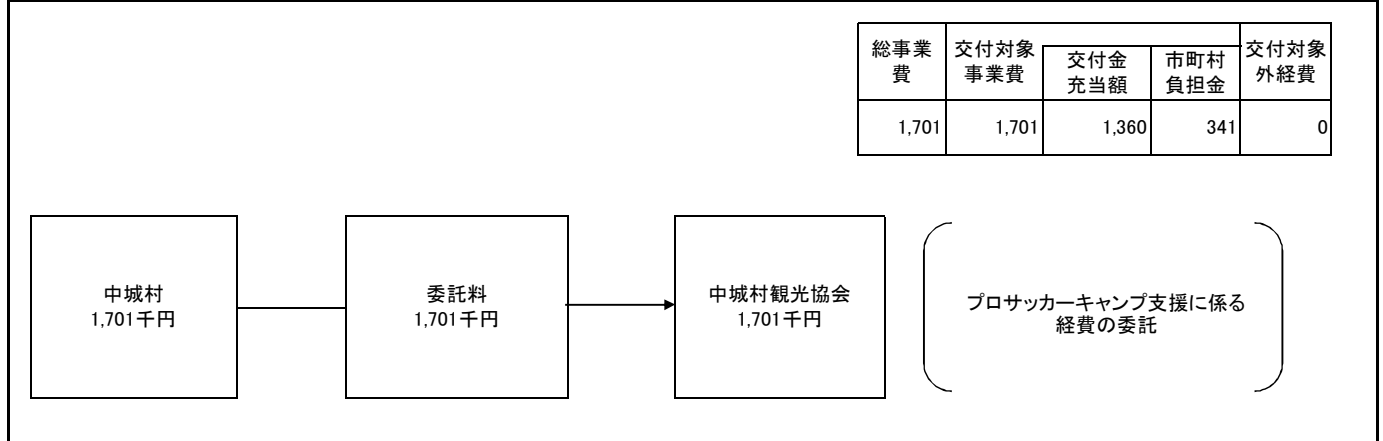
市町村名	中城村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③ プロサッカーキャンプ支援事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア		
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立		
事業内容	スポーツキャンプを通して、観光地としての魅力を発信し観光誘客を図るため、プロサッカーチームの冬季キャンプ誘致活動並びにキャンプ受入の歓迎イベントの開催及び円滑なキャンプ実施のための警備を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度()年度						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,902	1,920	2,622	1,484	1,710
		(b)予算現額	1,772	1,261	947	1,334	1,710
		(c)増減額(b-a)	▲130	▲659	▲1,675	▲150	0
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	1,772	1,261	947	1,334	1,710
		B.執行済額	1,481	1,201	947	1,334	1,701
		うち交付金充当額	1,184	960	757	1,067	1,360
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	83.6%	95.2%	100.0%	100.0%	99.5%
	予算の状況の説明	不要額は実績によるものであり、適切に事業を執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	プロサッカーチームの誘致活動の実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	キャンプの支援事業実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
達成状況説明	・本村のサッカーキャンプに関する受入体制のPRやキャンプ期間中の支援など、プロサッカーキャンプの誘致活動を実施した。 ・1~2月のキャンプ期間中は、支援事業を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	キャンプ見学者数	目標	()	(8,000人)	(8,000人)	(9,360人)	()
		実績			9,319人	6,844人	8,023人
	進捗状況説明	目標を下回る結果となったが、前年度より来場者が1,000人以上も増加しており、そのキャンプ見学者に対して村内観光地の宣伝や村内飲食店を周遊するスタンプラリー等を行い観光地としてのPRができたことで観光誘客に繋げることができた。					

	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	キャンプ期間中の見学者数(来村者数)を伸ばすためには、効果的な広報活動を行うとともに、「また来たい」と思わせる取り組みをする必要がある。	効果的な広報活動を検討するとともに、「また来たい」と思ってもらえるよう村内の観光情報と連携した取り組みを実施する。

今後の取り組み方針

メディアを活用した積極的な広報活動を実施し、また、村内の飲食店を周遊するスタンプラリーの内容を充実させる等キャンプ以外の魅力についても発信することで、見学者数（来村者数）が増えるよう取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位：千円)



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先は観光振興に資する団体を選定しており、支出先として妥当であると考えます。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額については実績に伴う精算の結果であり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて妥当であると考えます。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については、額の確定・精算時において支出等に関する書類により事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村
------	-----

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-④ 中城城跡受入基盤機能強化整備事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度 平成29~令和元年度	沖縄振興基本方針 該当箇所 Ⅲ-1-(1)

事業内容
中城城跡馬場広場は降雨による冠水が多発し、来訪者の往来に支障が生じることがある。来訪者の利便性を確保するため、広場の排水性を高めるための工事を行う。

効果発現年度
当年度 後年度(2年度)

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他()

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額			3,402	37,797
		(b) 予算現額			3,402	37,797
		(c) 増減額(b-a)			0	0
		(d) 繰越額			-	
		A. 計(b+d)			3,402	37,797
	B. 執行済額				3,294	35,337
	うち交付金充当額				2,635	28,269
	次年度繰越額				0	0
	執行率(%) (B/A)				96.8%	93.5%
	予算の状況の説明		不用額については入札残によるものであり、適切に事業を執行できた。			

活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		排水性を高めるための工事の実施	目標	()	()	()
		実績				実施
達成状況説明	悪天候による足元のぬかるみにより転倒の危険性がある中城城跡馬場広場において、来場者の安全確保のため、排水性を高めるための工事を実施した。					

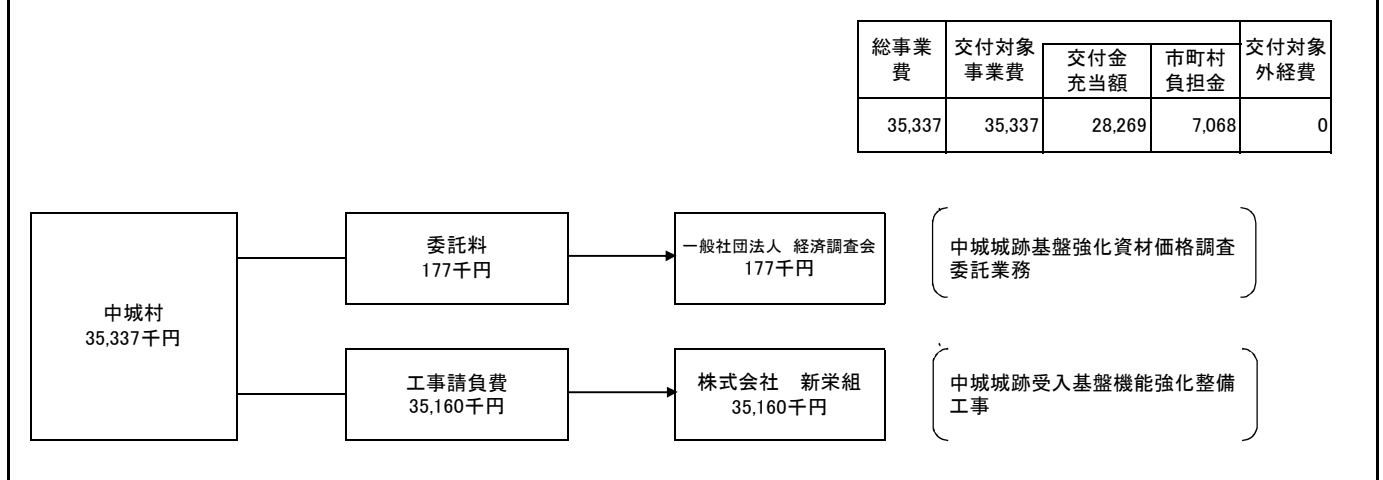
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)
		排水性を高めるための工事の実施完了	目標	()	()	()	(完了)
		実績				完了	
	【R2成果目標】 前日の悪天候による広場の状態悪化により、イベントを中止した回数	目標	()	()	()	()	(0回)
		実績					
進捗状況説明	目標どおりの整備が完了し、中城城跡馬場広場の排水性を高めたことで、来訪者を悪天候による足元のぬかるみによる転倒の危険性から、守れる安心安全な環境で受け入れることができるようになった。						

	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	中城城跡馬場広場における排水性を高めるための工事の完了により、観光客の受け入れ体制が整ったことから、今後の利活用に向けた誘客事業に力を入れる必要がある。	整備した箇所は国指定史跡の一部でもあることから、関係機関（村文化財部局、県文化財課等）の意見を参考にし、文化財の保護に配慮して観光誘客が期待できるような観光メニューを検討する。

今後の取り組み方針

関係機関（村文化財部局、県文化財課等）と密に調整を行い、景観や埋蔵物の有無を確認する等文化財の保護にも配慮しながら、観光誘客に取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）



	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流 れ・費 目・ 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○資材価格調査は地方自治法施行令第167条の2の規定に則り随意契約より実施しており、また、工事委託先は指名競争入札により選定しているため、適正であった。 ○不用額については入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて妥当であると考え。 ○費目・用途については、額の確定・精算時において支出等に関する書類により事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

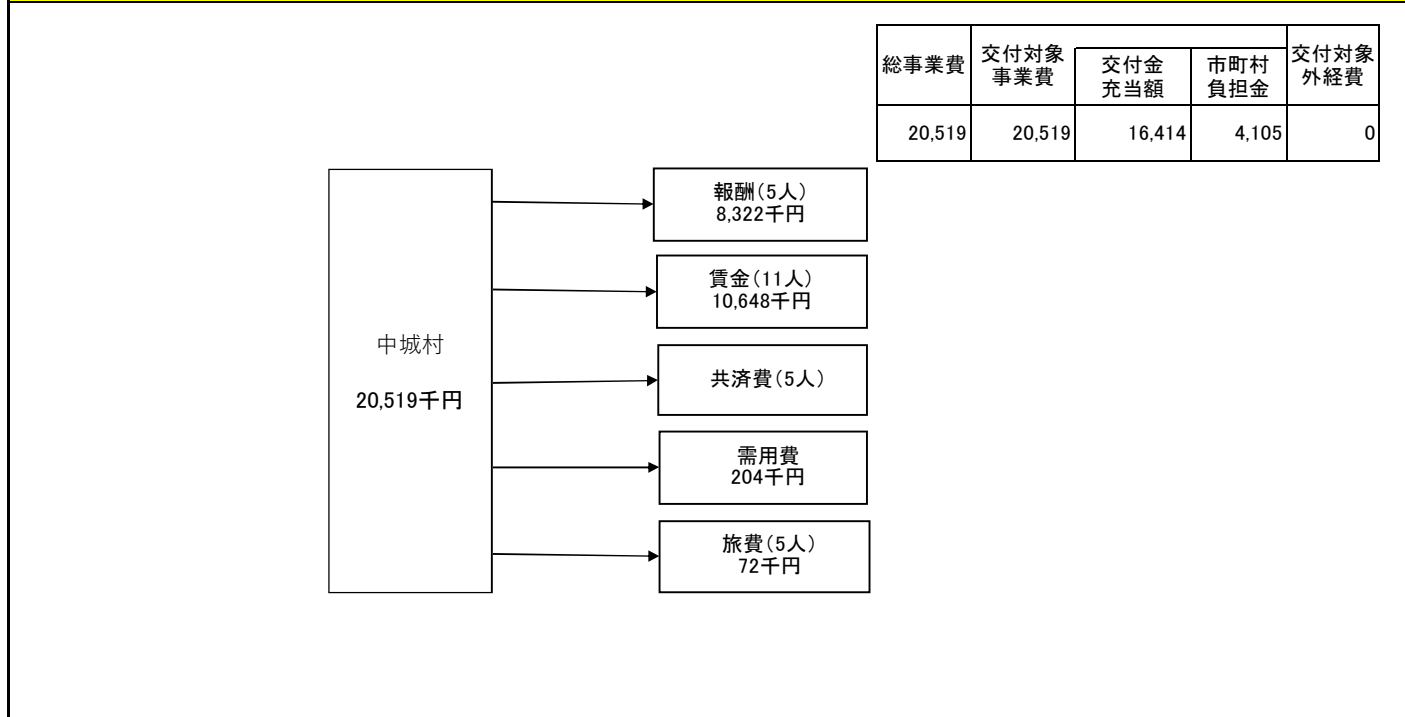
市町村名		中城村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤		観光地周辺環境美化事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
	担当部課名	都市建設課・産業振興課		事業実施(予定)年度	平成29~33年度	観光客の受入体制の整備	
				沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)		
事業内容		観光地及び観光地へのアクセス道路の美化清掃を行い、観光客の満足度向上を図る					
効果発現年度		<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法		<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額			15,758	20,360	21,727
		(b) 予算現額			13,772	19,665	20,519
		(c) 増減額(b-a)			▲1,986	▲695	▲1,208
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)			13,772	19,665	20,519
	B. 執行済額				13,772	19,665	20,519
	うち交付金充当額				11,017	15,731	16,414
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)				100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		適切に予算執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	環境美化作業員の配置 6名	目標	()	(6名)	(6名)	(6名)	
		実績		6名	6名	6名	
	中城城跡環境向上作業員 10名	目標	()	()	(10名)	(10名)	
		実績			10名	10名	
達成状況説明	美化作業員6名、向上作業員10名の採用により、年度を通して美化活動を実施できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	・観光客の満足度向上が図られたか(80%)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		97%	93%	81%	
	(参考指標) ・中城城跡を訪れた方々へのアンケートを実施し、満足度向上(80%以上)を目指す。	目標	()	()	(80%)	(80%)	()
		実績			82%	91%	
進捗状況説明	滞りなく作業を実施し観光地としてふさわしい景観創出を維持できたことで、作業場所の一つであるハンタ道は、文化庁が選定する「歴史の道百選」にも登録され、観光誘客促進に寄与することができた。						

	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	<p>作業を実施しているハンタ道は、昨年、文化庁が保存と活用を広く国民に顕彰するために選定する「歴史の道百選」にも登録され利用者増加が見込まれる。</p> <p>また、中城城跡においては、同じ世界遺産群である首里城が焼失してしまったため、これまで首里城が担っていた歴史観光客を一定程度受け入れられるよう万全の体制を整え、新規のリピーターを獲得することで更なる観光誘客に繋げていかなければならない。</p>	<p>夏場は雑草の伸びが早く、加えて悪天候が続く日も多いため足場が雨でぬかるみ作業効率が落ちてしまうため思うように作業が進まず、不快な状況になっている現場を見逃す恐れがある。そのため、常に現場状況を把握し効率的な作業を実施していく必要がある。</p>

今後の取り組み方針

不快な状況になっている現場を見逃さないよう現場状況を作業員と共有し把握することで、的確な指示を出し、効率的な作業を継続して実施していく。また、リピーターだけでなく初めて観光に訪れた方でも安全・安心・快適に周遊できる環境創出に取り組み更なる観光誘客を図る。

資金の流れ
 （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）



資金の流 れ・費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○ 費目、用途については精算段階で検査を実施しており、必要なものに限定されていると判断した。</p> <p>○ 作業員の採用については村の条例規則等に基づき雇用契約を行っており、妥当であったと考えている。</p> <p>○ 成果目標もほぼ達成できたことから、予算規模は適正であったと考える。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		中城村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑥	歴史の道整備事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ 観光客の受入体制の整備	
担当部課名	都市建設課	事業実施(予定)年度	令和元年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)		
事業内容	観光客等の安全確保を図るため、歴史の道の一部であるフクビリ橋の機能強化整備を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(2 年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a)当初予算額				15,596	
	(b)予算現額					15,596	
	(c)増減額(b-a)					0	
	(d)繰越額					0	
	A.計(b+d)					15,596	
	B.執行済額					15,229	
	うち交付金充当額					12,183	
	次年度繰越額					0	
	執行率(%) (B/A)					97.6%	
予算の状況の説明	不用額367千円については工事、委託の入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	委託設計の実施	目標	()	()	()	(実施)	
		実績				実施	
	整備工事の実施	目標	()	()	()	(実施)	
		実績				実施	
達成状況説明	フクビリ橋整備工事について、当初予定通り実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)
		目標	()	()	()	(完了)	(-)
	フクビリ橋整備工事の完了	実績				完了	
		【R2成果目標】 歩行時の安全性が確保されているか(80%以上)を含め、来訪者を対象としたアンケートにより、本事業の効果について検証する。	目標	()	()	()	(80%)
		実績					
		進捗状況説明	新たに滑り止めを施した床版と高欄を設置し観光客等の安全確保ができる環境を整備することができた。				

市町村名	中城村
------	-----

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-① 学校ICT環境整備等による学習意欲学力向上推進事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度 平成24~令和3年度	国際社会、情報社会に対応した教育の推進
		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容
ICTを使用したわかりやすい授業を実施することによる学校教育の質の確保及び教員のICT機器活用の習熟を図るため、情報教育補助員を配置し、授業支援やICT機器活用に向けた環境整備を行う。令和元年度は中学校にICT機器を整備する。また、令和元年度は中学校にICT機器(電子黒板等)を整備する。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	2,010	3,983	1,904	2,056	21,520
	(b) 予算現額	2,010	3,787	2,020	2,081	20,429
	(c) 増減額(b-a)	0	▲196	116	25	▲1,091
	(d) 繰越額	—	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	2,010	3,787	2,020	2,081	20,429
	B. 執行済額	1,903	3,787	2,015	2,081	20,429
	うち交付金充当額	1,522	3,028	1,611	1,644	16,343
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	94.7%	100.0%	99.8%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初予算どおり、適切に事業を執行できた。				

R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
・情報教育補助員 1人配置	目標	(小中学校1人)	(小中学校1人)	(小中学校1人)	(小中学校1人)
	実績	小中学校 1人	小中学校 1人	小中学校 1人	小中学校 1人
・年400時間の授業支援	目標	(200時間)	(200時間)	(200時間)	(400時間)
	実績	220時間	650時間	635時間	600時間
・電子黒板等ICT機器の整備	目標	(-)	(-)	(-)	(整備)
	実績				整備
達成状況説明	情報教育補助員を配置できた。授業支援時間についても、教員のICT機器活用の習熟を図ることにより、デジタル教材等を活用した授業へ取り組む教員が増加してきており、目標以上の年600時間を実施できた。また、中学校へICT機器(電子黒板等)を整備し、2学期より授業における機器活用が行われ、ICTを使用したわかりやすい授業を実施することができた。				

R1成果目標(指標)	基準値(年度)					目標値(年度)
		H29年度	H30年度	R1年度		
児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合:80%以上	目標	()	()	(80%)	(80%)	()
	実績			81%	84%	
教員にアンケートを実施し、ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がったと答えた割合:80%以上	目標	()	()	(80)	(80%)	()
	実績			83%	85%	
進捗状況説明	・児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合84%、教員にアンケートを実施し、ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がったと答えた割合85%となっており、成果目標を達成することができた。					

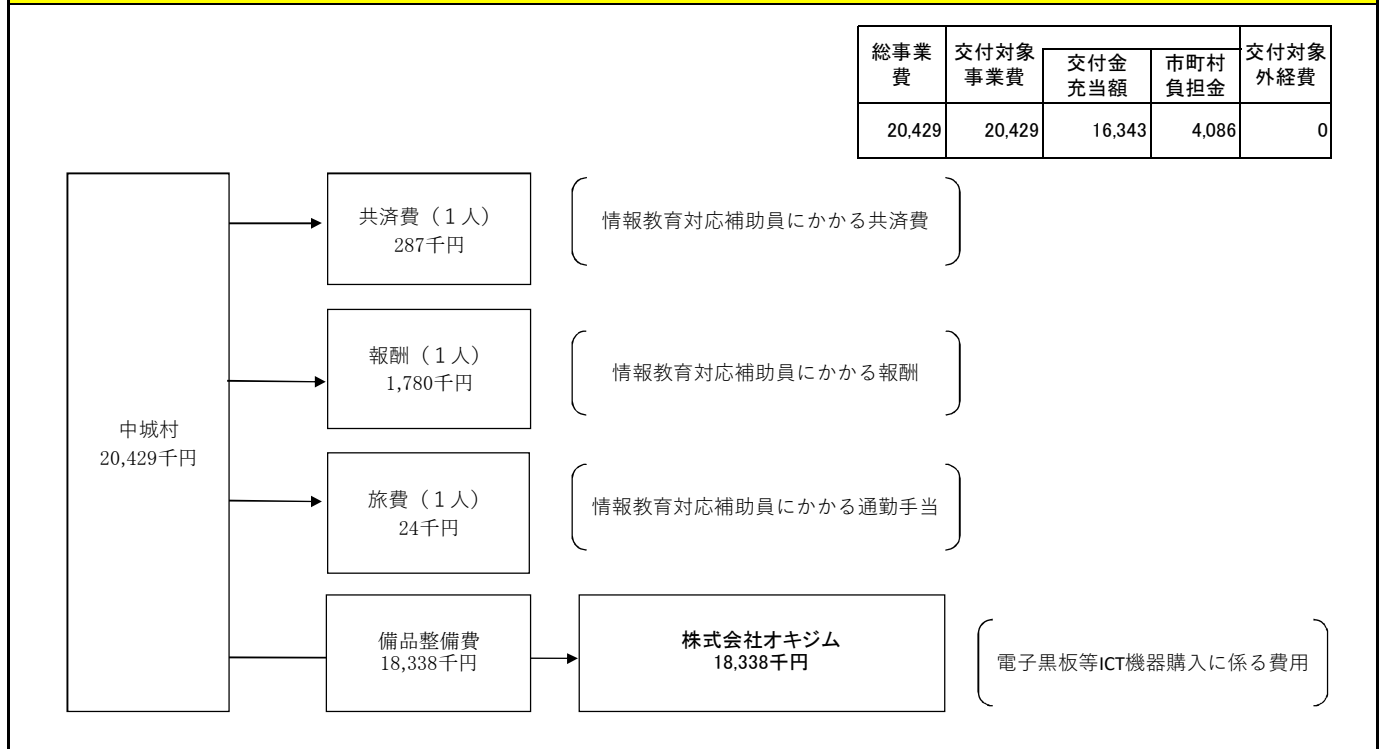
	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	<p>・情報教育補助員の配置により、授業におけるICT機器の活用及び、それに伴う教材作成に取り組む教員が増えたこと等により、ICT機器に対する習熟度のアンケートで85%の割合で習熟度が上がったとの回答があり、本年度は中学校でのICT機器（電子黒板等）の整備により、機器活用並びに授業への活用を行う教員数が増加した。</p> <p>・今後は、小学校でのデジタル教材等を活用した授業を希望する教員数が増加していることから、引き続き環境整備に向けた取り組みが必要となってきた。</p>	<p>・児童生徒の更なる基礎学力の向上を目指すためにも、ICT機器の整備を行い、継続的に情報教育補助員を配置し、研修会等を実施することで教員のICT機器に対する習熟度を高め、更なる教育環境の充実を図っていくことが必要である。</p>

今後の取り組み方針

(ICT機器を活用した授業)

- ・継続的な事業を実施するため、引き続き情報教育補助員を1名を配置し、児童生徒が日ごろからICT機器に触れる環境を作り、教員向けにICT機器に関する研修会等を開催し、ICT機器を活用したわかりやすい授業を推進することで、教育環境の充実を図る。
- ・ICT機器を使用したわかりやすい授業を実施するため、小学校においてもICT機器（電子黒板等）の整備を進める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位：千円)



資金の流 れ・費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流 れ・費 目・ 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ ICT支援員の採用については村の条例規則等に基づき雇用契約を行っており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ ICT機器の整備にあたっては、指名競争入札により契約を行っており、妥当であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 成果目標もほぼ達成できたことから、予算規模は適正であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○ 費目・使途については、目的達成に必要な人件費等に充当し限定されている。

市町村名	中城村
------	-----

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-②	きめ細かな児童生徒支援事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進
			沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容

- ・特別支援員を配置し、特別な支援を要する児童生徒対応した支援を行うことで、学校生活や学習上の困難の改善を図る。
- ・心理相談員、教育相談員を配置し、不登校など課題のある児童生徒に対応した支援を行うことで、不登校の改善を図る

効果発現年度 当年度 後年度 (年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	(a) 当初予算額		35,781	39,206	53,607	49,843	55,676
(b) 予算現額		35,781	34,333	44,986	41,835	46,221	
(c) 増減額 (b-a)		0	▲ 4,873	▲ 8,621	▲ 8,008	▲ 9,455	
(d) 繰越額		-					
A. 計 (b+d)		35,781	34,333	44,986	41,835	46,221	
B. 執行済額		32,098	34,108	44,986	41,712	46,221	
うち交付金充当額		25,678	27,286	35,988	33,369	39,976	
次年度繰越額							
執行率 (%) (B/A)		89.7%	99.3%	100.0%	99.7%	100.0%	
予算の状況の説明	適正のある支援員を確保するため時間を要したことから、4月時点で予定人数は確保できず減額が生じてしまったが、予算は目的通り適切に執行された。						

活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	・特別支援員配置22人 幼稚園 4人 小学校 15人 中学校 3人	目標	(幼稚園4人 小学校9人 中学校3人)	(幼稚園6人 小学校14人 中学校4人)	(幼稚園6人 小学校12人 中学校3人)	(幼稚園4人 小学校15人 中学校3人)
		実績	幼稚園4人 小学校11人 中学校3人	幼稚園6人 小学校12人 中学校3人	幼稚園5人 小学校13人 中学校2人	幼稚園5人 小学校14人 中学校3人
	・相談員の配置4人 教育相談員3人 心理相談員1人	目標	(教育相談員3人 心理相談員1人)	(教育相談員3人 心理相談員1人)	(教育相談員3人 心理相談員1人)	(教育相談員3人 心理相談員1人)
		実績	教育相談員3人 心理相談員1人	教育相談員3人 心理相談員1人	教育相談員3人 心理相談員1人	教育相談員3人 心理相談員1人
達成状況説明	おおよその計画通り支援員及び相談員を配置することができた。					

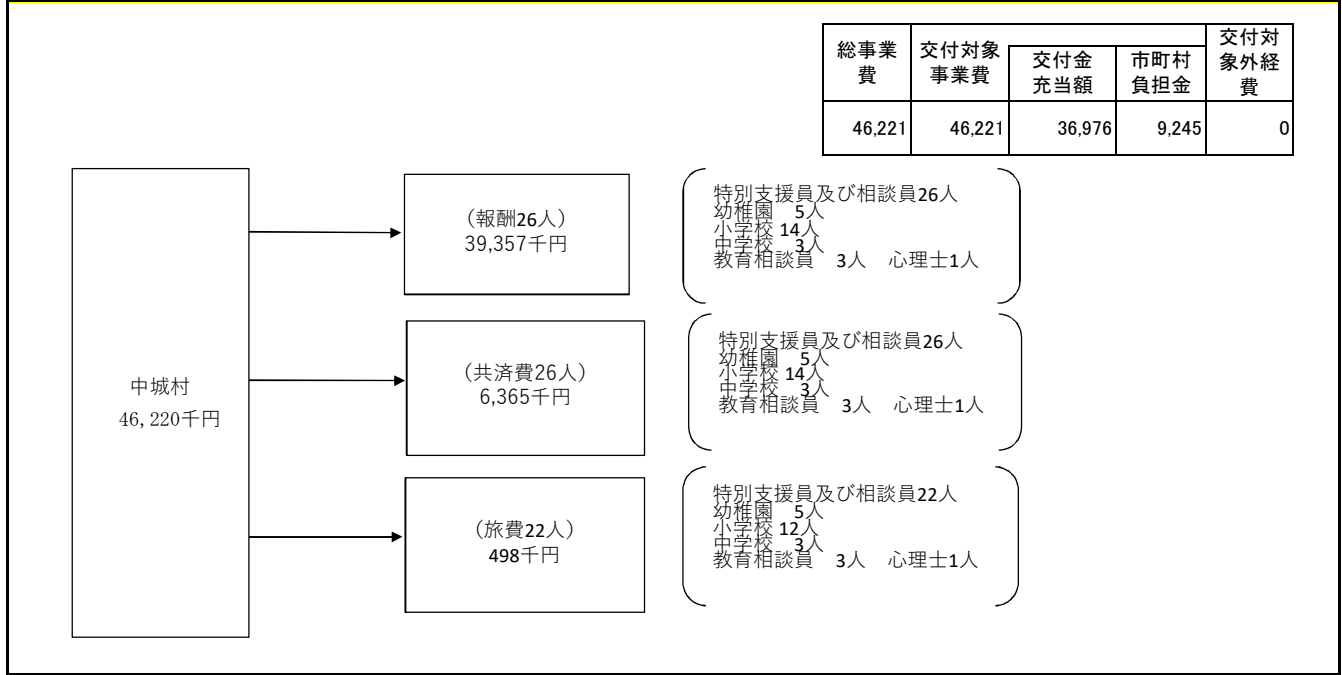
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
			特別支援員の対応への満足度(70%以上)を含め、保護者へのアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(70%)	(70%)
	実績	/	67%	92%	79%	/	
不登校児童生徒復帰率57%	目標	()	()	(60%)	(57%)	()	
	実績	/	/	40%	56%	/	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者との連携、情報共有を密に行ったことで、安心して学習できる環境を確保し、目標を達成することができた。 ・不登校児童生徒復帰率については目標値を下回る結果となったが、前年度よりも改善が見られ継続して支援を実施してきた効果が表れている。 						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	<p>(特別支援員アンケート) 関係者との連携や情報共有を行ってきたことで、児童への支援ニーズに応えることができたが、保護者アンケートだけでは把握できない部分もあるので、今後は保護者との連携も強化し課題等を洗い出して支援計画を策定していかなければならない。 また、支援員の能力にばらつきがあることから、より専門性を高めていく必要がある。</p> <p>(不登校児童生徒復帰率) 今年度の目標値は達成できなかったが、前年度と比較すると復帰率は改善傾向にあり、引き続き児童生徒への支援を行い、対象児童生徒が安心して学校生活が送れるようにするため、家庭訪問や、声掛け、悩み相談、問題行動の仲裁等を継続して実施していかなければならない。</p>	<p>(特別支援員アンケート) 児童への支援をより効果的なものにしていくため保護者の意見を反映させた支援計画を作成する必要がある。 支援員の専門性を高めていくために十分な研修を行っていく必要がある。</p> <p>(不登校児童生徒復帰率) 前年度と比べ、効果が見られたことから、SSW、教育相談員の連携を図り、引き続き取り組んでいく。</p>

今後の取り組み方針

保護者からの意見を取り入れ、支援計画に反映させることで、より効果的な支援ができるよう取り組む。
支援員の研修制度を充実させることで、専門性を高め支援体制の強化を図る。
不登校児童生徒については継続して家庭訪問を行い、児童、保護者の問題を共有していくことで安心して学校生活が送れるよう支援していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 千円)



資金の流れる点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の採用については、村の条例規則等に基づき雇用契約を行っており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○4月時点で予定している人員の確保ができなかったが、予定していた事業規模はほぼ実施できたので予算規模は適正であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については、目的達成に必要な人件費等に充当し限定されている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村
------	-----

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

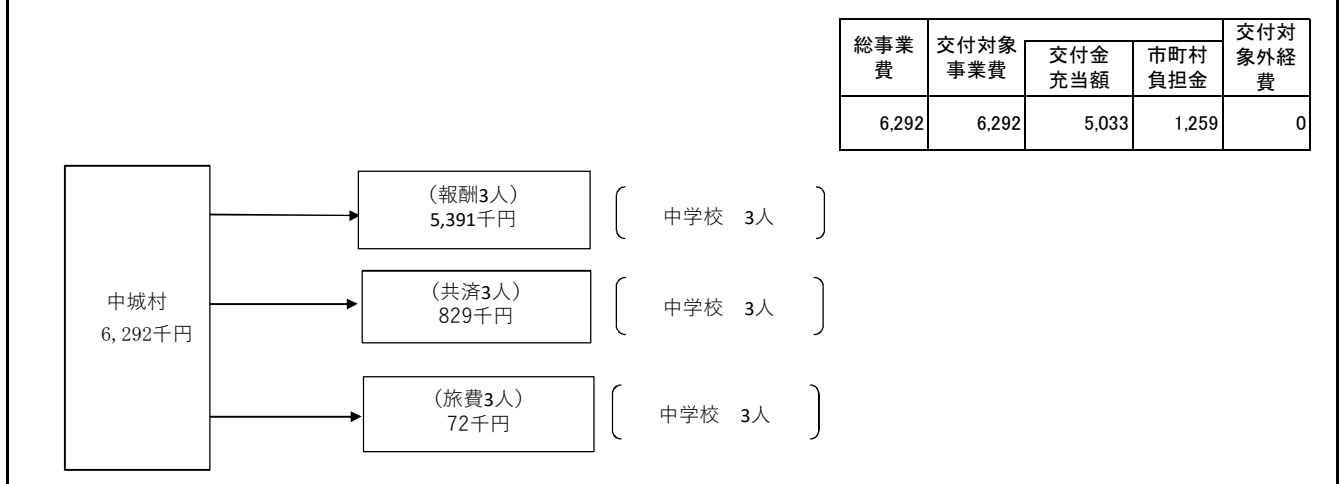
事業番号・事業名	4-③	学力向上のための学習支援事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア			
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成29~令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進		
事業内容	村内中学校に学習支援員を配置し、数学を中心とした学習支援を実施することで、学力の向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度 (年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d)				17,793	6,225	6,297
					5,647	6,225	6,292
					▲ 12,146	0	▲ 5
					5,647	6,225	6,292
					5,647	6,218	6,292
				4,517	4,974	5,033	
				100.0%	99.9%	100.0%	
		予算の状況の説明 当初予算どおり適切に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	学習支援員配置 中学校3人	目標		(中学校3名)	(中学校3名)	(中学校3名)	
		実績		中学校3名	中学校3名	中学校3名	
	達成状況説明	学習に課題を持つ生徒に対して支援を行う学習支援員3人を、目標通り配置できた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)
	県学力到達度調査(数学)において、県と本村との平均正答率の差-4.2ポイント以上)	目標	(差-4.5P以上)	(差-4.5P以上)	(差-4.5P以上)	(差-4.2P以上)	()
		実績		差-4P	差-10P	差-8.6P	
		進捗状況説明	目標を下回る結果となったが、前年度よりも平均正答率の差は縮まり、継続して支援を実施してきたことで、少しずつではあるが学力の底上げに繋がり、支援の効果が始まっている。				

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	学習不振の生徒の多くは、小学校での学習内容が未定着であり、復習支援から行っていかなければならないため、基礎学力の定着に時間を要することから、能率的な支援を組織的に推進していかなければならない。	個々の課題による少人数グループ支援を進めることで、支援の質的向上を図る。類似の課題をもつ生徒のグループ化により、各問題への指導時間の短縮につなげ、当該学年レベルの練習問題の時間を増やすことで基礎学力の定着を図るとともに授業以外では生徒個々の課題に合わせた放課後の補習活動、各段階に合わせた適切な家庭学習の提供により、基礎学力の定着を図る。

今後の取り組み方針

- ・学年会議では生徒の全体的な教科の課題分析、教科会議では当該教科の課題分析を行い、それらの分析結果に基づき、組織的な指導・支援が行えるよう取り組む。
- ・キャリア教育及び進路指導の充実を図ることで、生徒の学習の目的意識を高め、個々の生徒の学習意欲を育む。
- ・外部検定等も活用し、個々の状況に合わせた目標の設定と支援の充実に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 千円)



資金の流 れ 点 検 評 価 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○学習支援員の採用については村の一般職非常勤職員の任用、勤務条件に関する条例に基づき雇用契約を行っている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予定していた事業内容はすべて実施されたことから予算規模は適正であったと考える
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業の目的達成に必要な人件費等に充当し限定されている。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村
------	-----

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-④	子育て保育支援事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ
担当部課名	こども課	事業実施(予定)年度 平成29～令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	地域における子育て支援の充実
				Ⅲ-3-(1)

事業内容	心身に障がいのある児童又は、発達に遅れのある特別な支援が必要な児童を保育所等で受入れるために、保育士加配に対する支援を行い、一般の児童と共に集団保育を行う体制を構築する。
------	---

効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度 (年度)
--------	---

実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()
------	--

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)			30,504	36,683	36,935	
				29,001	29,299	34,071	
				▲ 1,503	▲ 7,384	▲ 2,864	
				-	-	-	
	B. 執行済額				29,001	29,299	34,071
	うち交付金充当額				23,200	23,439	27,256
	次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)				100.0%	100.0%	100.0%
	予算の状況の説明		当初予定していた施設への加配保育士配置が必要なくなったため、減額が生じたが、予算を目的通り適切に執行することができた。				

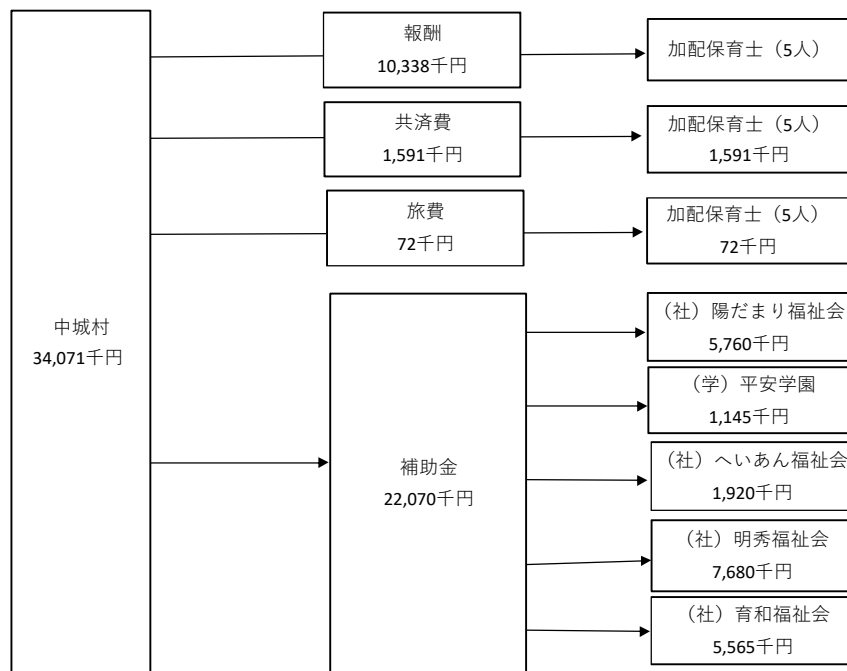
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		・加配職員数18人配置及び配置支援	目標 () 実績 (加配職員数16人)	(加配職員数16人)	(加配職員数16人)	(加配職員数18人及び配置支援)
達成状況説明	概ね当初の計画通り加配保育士を配置出来た。					

成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
			保育園での生活の困難が改善されたか(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
			実績		98%	96%	91%	
			目標	()	()	()	()	()
進捗状況説明	対象児の保護者アンケートの結果、91%が「良かった」と回答しており、保育士を加配配置し手厚く支援することが効果的であった。							

推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）		改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	(保護者へのアンケート) ・加配保育については目標を上回る結果を得ることができた。その要因として、加配対象児へのきめ細かな保育により保護者の不安を取り除き、安心感に繋がった為であると考えている。	自閉症や発達障害など障がいの種類や度合いによって児童の関わり方が変わる為、加配保育士への助言や指導を行う必要がある。
	今後の取り組み方針	
<p>・引き続き、対象児童を受け入れるために、加配を行う施設への支援を継続して実施し、他の児童と共に集団保育を行っていく。また、加配保育士向けに村の心理士と連携して障がい児への関わり方などさらに理解を深める為の勉強会などを実施し、子どもたちの健やかな成長を支える体制を構築していく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
34,071	34,071	27,256	6,815	0



資金の流 れ・費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○		支出先の選定方法は妥当か。	○補助事業者は支援が必要な子の受け入れが可能な施設であるため、妥当であると考えている。 ○事業者負担もあり、事業内容から鑑みて妥当であったと考える。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村
------	-----

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-⑤	ひとり親家庭学童利用支援事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-エ
担当部課名	こども課	事業実施(予定)年度 平成30年度～令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	要保護児童やひとり親家庭等への支援 Ⅲ-4-(1)

事業内容
ひとり親家庭の学童利用に係る負担を軽減図り、ひとり親家庭でも安心して子育てができる環境を整備する。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額			3,000	6,000
		(b) 予算現額			4,418	4,815
		(c) 増減額(b-a)			1,418	▲ 1,185
		(d) 繰越額				
		A. 計(b+d)			4,418	4,815
		B. 執行済額			4,418	4,730
		うち交付金充当額			3,534	3,784
		次年度繰越額				
		執行率(%) (B/A)			100.0%	98.2%
		予算の状況の説明	当初予定より対象者が少なかったため減額が生じた。			

活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		ひとり親家庭への学童利用料を減免する学童クラブへ補助を行う。	目標	(-)	(-)	(実施)
		実績			実施	実施
	達成状況説明	村内の7学童に対し、4,730円の補助を行い、学童支援を実施した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)		
			安心・安全に子供を預けることができ、育児の負担感が軽減されたか(80%以上)を含め、ひとり親家庭の保護者へのアンケートにより本事業を検証する。	目標	()	()	(80%)	(80%)	(-)
				実績			98%	100%	
	進捗状況説明	円滑に支援を実施してきたことで目標を達成し、ひとり親家庭の生活環境安定に寄与することができた。							

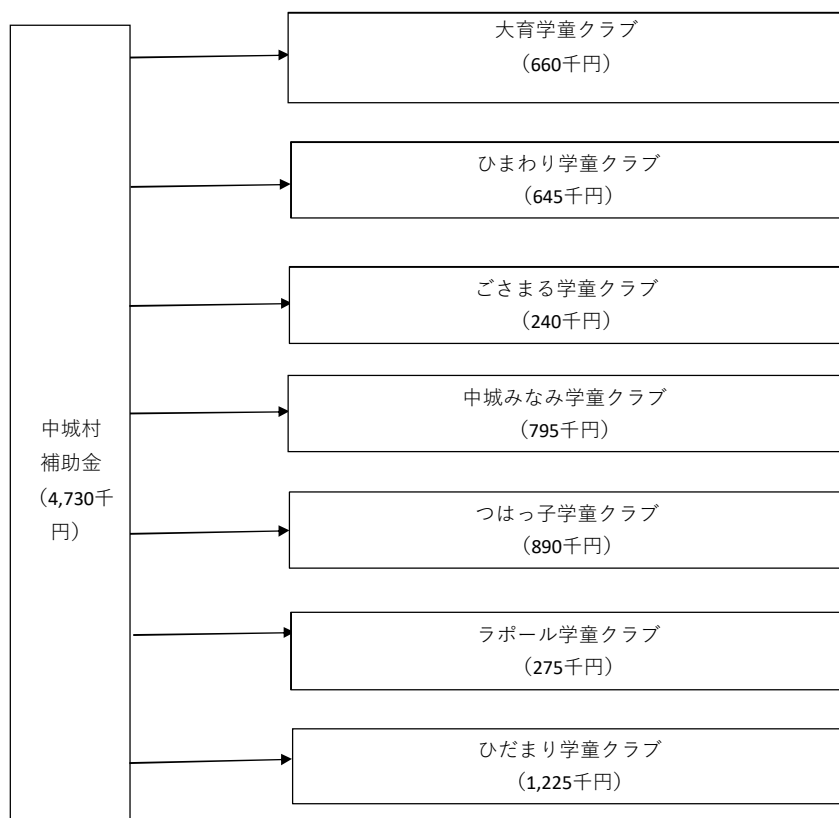
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	<p>保護者の手続きを簡略化したことで、保護者が学童クラブの減免を利用しやすい環境になっている。 また、年度途中で支援を必要とする家庭もあるため、そういった対象者への支援漏れがないよう、継続的な周知を行っていかなければならない。</p>	<p>対象者が支援を円滑に受けられるよう、持続的に周知活動を行うこと、また、学童クラブとの連携を強化していく必要がある。</p>

今後の取り組み方針

4月に入所してくる受付対象者だけでなく、年度途中に出てくる対象者についても支援漏れがないよう、HPでの周知や、村内学童クラブとの連絡協議会等での情報交換を行い連携を強化するとともに、学童への申込時に支援の案内を行い、ひとり親家庭が安心した生活環境が確保できるよう取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する) (単位：千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,730	4,730	3,784	946	0



ひとり親家庭の学童利用料免除に係る学童クラブへの補助

資金の流れ・費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、当該事業の要綱に規定している学童クラブであり、妥当だと考える。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○当初予算と執行済額に開きがあるため、次年度の当初予算は考慮が必要である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である各学童クラブに対する補助額は、学童利用料のおおよそ1/2であること、また、保護者の減免額分を補助額として負担しているのが妥当だと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、清算段階で目的に即しているか確認をし、必要であったと判断した。

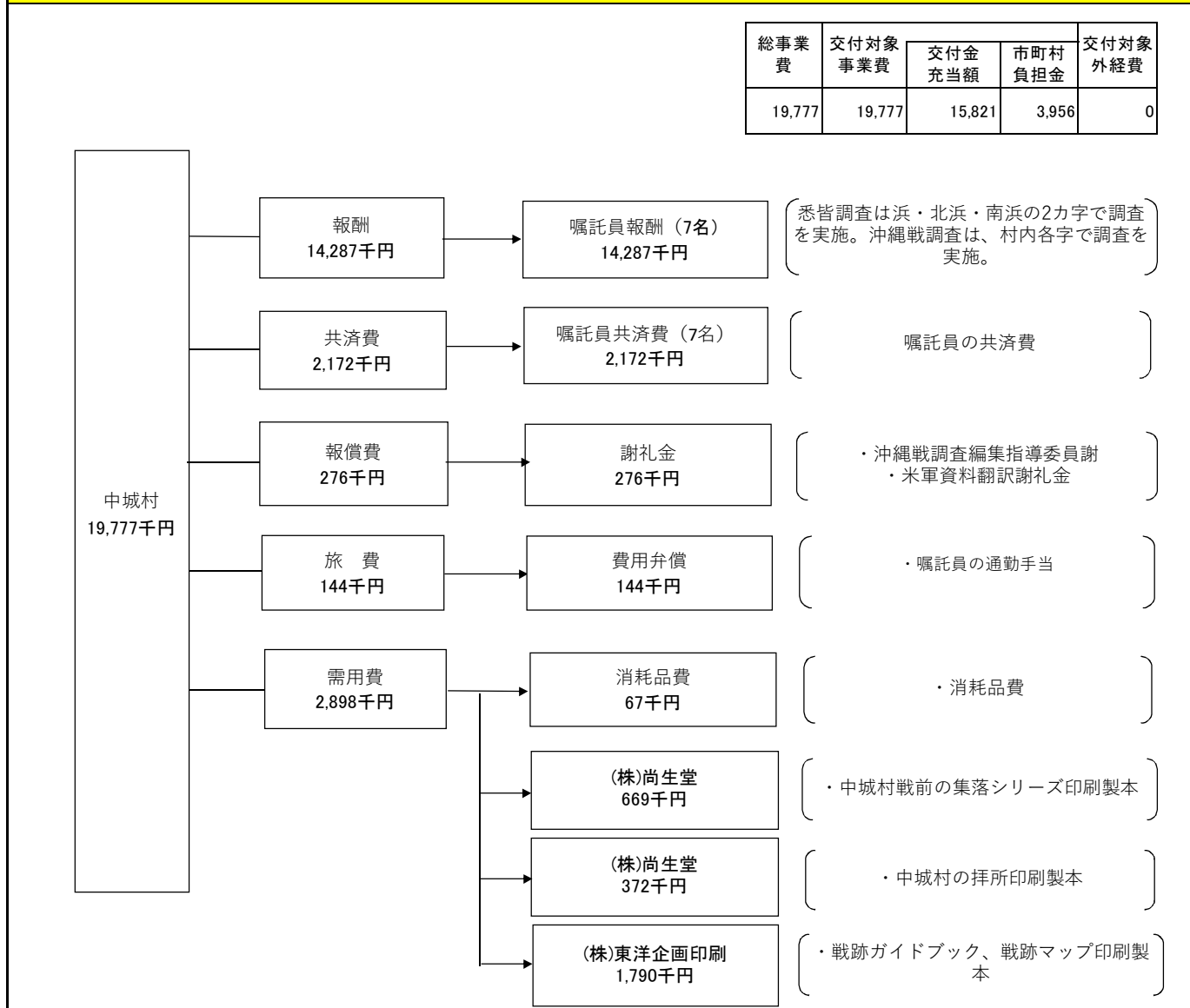
市町村名		中城村				
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	5-①	文化財悉皆及び中城村沖縄戦調査事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア
担当部課名	中城村教育委員会 生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	
事業内容	村民の文化財保護意識の高揚と文化財の活用を図るため、村内文化財の悉皆調査を行い文化財の位置及び現況を把握することや、村内の沖縄戦に関する遺跡の所在、体験談を記録に残し、次世代に継承するため調査事業を行う。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度 (年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	(a) 当初予算額	10,160	16,231	22,796	33,540	25,008
	(b) 予算現額	10,160	16,231	21,140	33,540	20,262
	(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 1,656	0	▲ 4,746
	(d) 繰越額					0
	A. 計(b+d)	10,160	16,231	21,140	33,540	20,262
	B. 執行済額	10,085	14,467	21,098	29,991	19,777
	うち交付金充当額	8,067	11,573	16,877	23,993	15,821
	次年度繰越額					
	執行率(%) (B/A)	99.3%	89.1%	99.8%	89.4%	97.6%
予算の状況の説明	米軍資料翻訳作業に携わる専門性の高い人材を確保するのに時間を要してしまったこと等から、減額が生じたが、予算は目的どおり適切に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況			
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	【文化財悉皆調査】各集落での聞き取り調査の実施	目標	(3字)	(3字)	(2字)	(3字)
		実績	3字	3字	2字	3字
	【文化財悉皆調査】調査概報(各字パンフレット)の作成:3字(合冊)	目標	()	()	()	(3字)
		実績				3字
	【文化財悉皆調査】「中城村の拝所」の作成	目標	()	()	()	(冊子の作成)
		実績				冊子の作成
	【中城村沖縄戦調査】調査員による沖縄戦調査	目標	(調査の実施)	(調査の実施)	(調査の実施)	(調査の実施)
		実績	調査の実施	調査の実施	調査の実施	調査の実施
【中城村沖縄戦調査】中城村戦跡マップの作成	目標	()	()	()	(マップの作成)	
	実績				マップの作成	
達成状況説明	(文化財悉皆調査) 浜・北浜・南浜の3字で中城の戦前の状況を中心に聞き取り調査を行い、これらの調査成果をまとめた文化財パンフレットシリーズ№15「中城村戦前の集落 浜・北浜・南浜」500部を発刊した。また、村内全域の拝所をまとめた「中城村の拝所」500部の発刊も行った。 (沖縄戦調査) 村内における沖縄戦に関する聞き取り調査を実施するとともに、これら聞き取り調査や文献調査で判明した村内の戦跡をまとめた戦跡ガイドブック「中城村の戦跡遺跡」10,000部と「中城村の戦跡マップ」20,000部を発刊した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度
	調査内容を活用した企画展示会の来場者数	目標	()	()	()	(1,000人以上)
		実績				1,297人
進捗状況説明	・文化財悉皆調査に関しては、当初目標どおり3カ字の調査と文化財パンフレットの発刊、さらに「中城村の拝所」の発刊を行う事ができた。 ・沖縄戦調査に関しては、調査成果展「中城村の学童疎開展」を実施した。新聞やテレビを活用した広報の効果もあり予定を上回る人数に見学してもらう事ができた。					

推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証 （悉皆調査、沖縄戦調査） 悉皆調査、沖縄戦調査とも年次計画に沿って調査を実施してきており、令和元年度で聞き取り調査をほぼ終えることができた。今後は、これらの成果をまとめた集大成となる冊子を令和2年度と同3年度に分けて発刊していく計画であるが、これまで各字で実施してきた聞き取りや、関係各所から収集してきた資料の量は膨大であり、これらを一般住民にも分かり易く活用しやすい冊子としてまとめあげることができるかが課題である。さらにその執筆・編集を行うには多大な時間を要するため、限られた時間の中でいかに効率よく円滑に作業を進めるかも大きな課題となっている。	（悉皆調査、沖縄戦調査） 令和2年度に入る前に発刊予定冊子の目次案と工程表(令和2年度事業計画)作りを行い、本業務のために雇用した非常勤職員への適切な業務分担を行わせ作業の効率化を図り業務を実施する必要がある。

今後の取り組み方針

（悉皆調査、沖縄戦調査）
 ・文化財悉皆調査は、令和2年度に「仮称・中城村の文化財」を発刊し、令和3年度には「仮称・中城村戦前の集落総集編」の発刊と調査成果展を実施する。
 ・沖縄戦調査は、令和2年度に「仮称・中城村の学童疎開」と「仮称・中城村の沖縄戦証言編」を発刊し、令和3年度には「仮称・中城村の沖縄戦資料編」の発刊と調査成果展を実施する。

資金の流れ
 （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）



資金の流し、点検項目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流し、点検項目・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○印刷業者は指名競争入札で選定しており、妥当と考えている。 ○不用額は謝礼金の残りで全体の2.4%となっている。予算全体的には適正な規模であったと思慮する。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

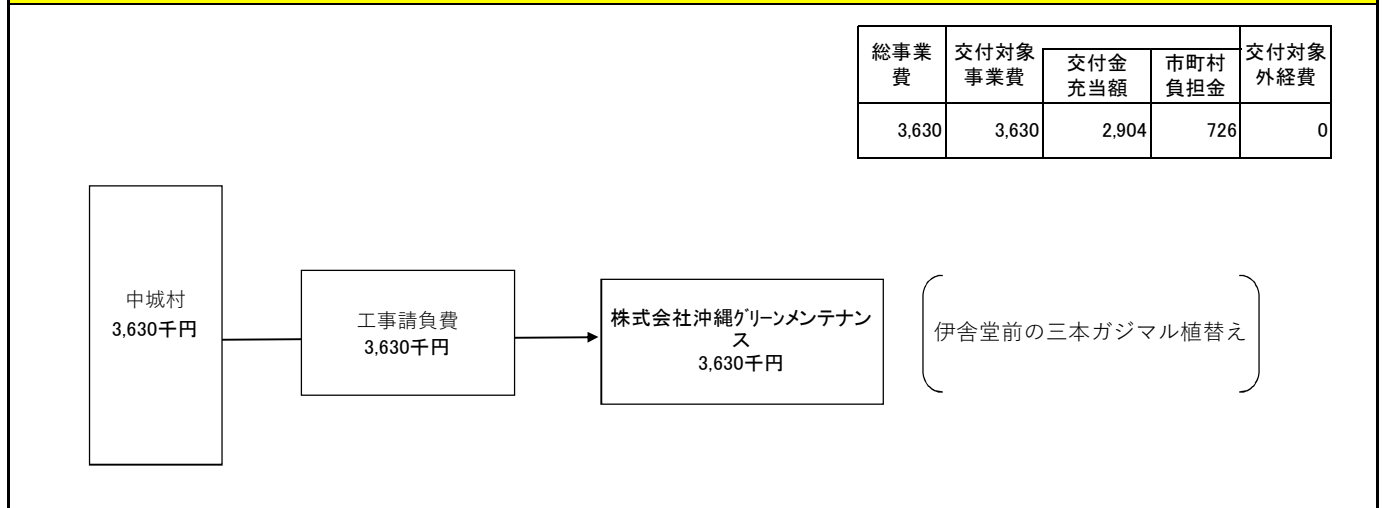
市町村名	中城村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-②	村内文化財整備事業					
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度					
		平成29～令和3年度					
事業内容	中城村指定文化財(史跡)「伊舎堂前の三本ガジマル」のガジマルが、南根腐病に罹病して枯死したため、地元からも復旧の要望が出されていた。そのため、ガジマルの植替えと周辺の土壌の入替を行い、歴史的景観の復元を行い本村の歴史文化の継承を図った。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(2年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input checked="" type="checkbox"/> その他(請負)						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a)当初予算額			5,549	3,685	
		(b)予算現額			5,549	3,630	
		(c)増減額(b-a)			0	▲55	
		(d)繰越額			0	0	
		A.計(b+d)			5,549	3,630	
		B.執行済額			5,379	3,630	
		うち交付金充当額			4,302	2,904	
		次年度繰越額			0		
		執行率(%) (B/A)			96.9%	100.0%	
	予算の状況の説明	事業計画どおり執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	ガジマル植替え工事の実施	目標	()	()	()	(植替えの実施)	
		実績				植替えの実施	
	達成状況説明	村指定文化財(史跡)「伊舎堂前の三本ガジマル」の植替えを実施した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)
	「伊舎堂前の三本ガジマル」の植替え完了	目標	()	(-)	(-)	(完了)	()
		実績				完了	
	【R2成果目標】 伊舎堂前の三本ガジマルを活用した学習会等の参加者数:80人以上	目標	()	(-)	(-)	(-)	(80人)
		実績					
	進捗状況説明	「伊舎堂前の三本ガジマル」の枯死していたガジマルの植替えを行い、歴史的景観を復元することができた。その事により、地元の住民を始めとした村民に対する地域文化財の継承促進を図る環境を復元する事ができた。					

	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	<p>（「伊舎堂前の三本ガジマル」の植替え）</p> <p>伊舎堂前の三本ガジマルに植えられていたガジマルが枯死し、文化財としての景観が損なわれており、地域からの復旧の要望もあったため、当該事業により歴史的景観を復元することができ問題解決に繋がった。今後は対象文化財を活用した地域文化財巡り等を促進していかなければならない。</p>	<p>（「伊舎堂前の三本ガジマル」の植替え）</p> <p>村内の小中学校の地域学習や、村民向けの文化財めぐり等を実施する。また、今後発行する文化財や観光パンフレット等に整備した文化財を記載して、村内外に情報発信を図る必要がある。</p>

今後の取り組み方針

（「伊舎堂前の三本ガジマル」の植替え）
 当該文化財の景観を復旧したことで、今後は村内外の人々を対象に文化財巡りを実施し、対象文化財の周知を図り、文化財に対する理解と愛護精神を高めて継承を図る。

資金の流れ
 （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）



資金の流し、点検、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算は適正な規模であったと考えている。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

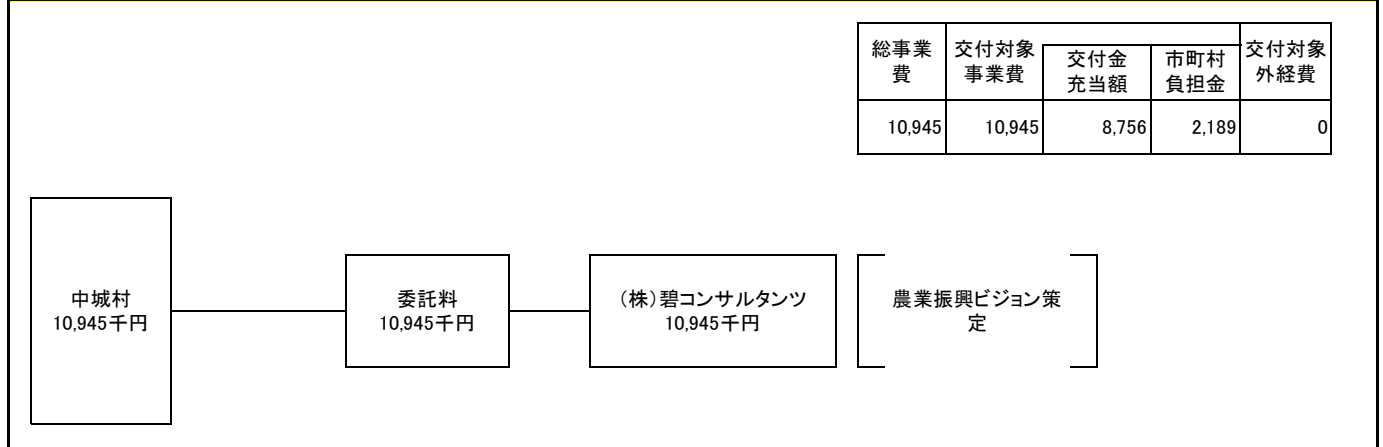
市町村名	中城村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	中城村農業振興ビジョン策定事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-7 地域特性を活かした産業活性化事業		
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成30～令和元年	沖縄振興基本方針 該当箇所	III-1-(4)		
事業内容	近年の農業をとりまく環境は異常気象による災害や就農者数及び生産高が減少するなど多くの課題を抱えている。そのような環境の中で様々な課題を解決し農業振興を図るため、施策展開の基本方針を定めた農業振興ビジョンを策定する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(2年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額				11,070	10,972
		(b) 予算現額				9,990	10,945
		(c) 増減額(b-a)				▲ 1,080	▲ 27
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)				9,990	10,945
	B. 執行済額					9,990	10,945
	うち交付金充当額					7,992	8,756
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)					100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初予算どおり、適切に事業を執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
	調査及び現状分析の結果をもとに、基本計画及び振興方向の検討を行い農業振興ビジョンを策定する。	目標	()	()	(調査の実施)	農業振興ビジョンの策定	
		実績			調査の完了	農業振興ビジョンの策定完了	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	昨年度実施した生産農家へのアンケートや関係機関へのヒアリング等の調査結果を基に、役場関係部署によるワーキンググループ及び農業関係者で構成するビジョン策定委員会の基本構想及び基本計画を検討し、中城村農業振興ビジョンの策定を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)
	農業振興ビジョンの策定完了	目標	()	()	(調査の実施)	農業振興ビジョンの策定	()
		実績			調査の完了	農業振興ビジョンの策定完了	
	【R2成果目標】 農業振興ビジョンに基づき、本村の農業振興を目的とした施策の実施につなげる。	目標	()	()	()	()	(実施につなげる)
		実績					
進捗状況説明	昨年度作成した基本構想を再度検証し、基本構想の中でそれぞれの課題に対する施策を立て、基本計画において分類別における現状と課題を分析し目指す方向及び施策の展開をまとめることができた。						

	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	（農業振興ビジョン策定） 基礎調査を分析し基本構想や基本計画を作成する中で、耕作放棄地増加の背景や問題点、生産環境の問題、品目ごとに抱える問題、人材不足、経済的・物的支援、流通における問題点など様々な課題が見えてきた。	（農業振興ビジョン策定） 様々な課題解決に向け策定した施策を実行するため、実施計画の作成に取り組む必要がある。

今後の取り組み方針

（農業振興ビジョンを基にした実施計画の作成）
各施策を分析し、優先順位を決め具体的な実施計画を作成し、関係機関と連携しながら農業振興に向け施策の展開を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者はプロポーザルにより選定しており、妥当であったと考える。 ・予定していた事業はすべて実施され、活動目標及び成果目標の達成状況を鑑みて予算規模は適正であったと考える。 ・費用・用途は、事業完了時の検査において精査しており妥当であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村
------	-----

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-②	中城村農業振興環境整備事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-1 地域特性を活かした産業活性化事業
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度 平成30～令和3年	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(4)

事業内容
本村で伝統的に栽培されている農作物の生産量の増加を図るため栽培試験を行う。そのために必要な圃場等の環境整備や試験を行う人員の配置を行い、より効果的な栽培技術の確立を目指す。

効果発現年度
 当年度 後年度(4年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額			10,104	8,252	
		(b) 予算現額			8,058	6,575	
		(c) 増減額 (b-a)			▲ 2,046	▲ 1,677	
		(d) 繰越額					
		A. 計 (b+d)				8,058	6,575
	B. 執行済額					8,058	6,575
	うち交付金充当額					6,447	5,260
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)					100.0%	100.0%
	予算の状況の説明		適性のある指導員を確保するため時間を要したことから、4月時点で予定人数は確保できず減額が生じてしまったが、予算は目的通り適切に執行された。				

活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況			
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
営農指導員2人の採用	目標	()	()	(2人)	(2人)
	実績			2人採用	2人採用
作業補助員1人の採用	目標	()	()	()	(1人)
	実績				1人採用
試験栽培の実施	目標	()	()	(2品目)	(実施)
	実績			2品目試験実施	2品目試験実施
試験用ハウス建築	目標	()	()	(1棟)	()
	実績			1棟整備	
達成状況説明	営農指導員を2名及び作業補助員を1名採用し、2品目(島ニンジン、島ダイコン)の試験栽培及び営農指導を行った。試験栽培では、島ニンジン種子の効率的な種皮除去の作業要領を考案できた。また、シーダーテープを使用した播種試験においては、発芽率の高い地表面からの播種の深度を確認することができた。島ダイコンにおいては、被覆ネットを使用した減農薬栽培の確認を行うことができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R4年度)
		試験栽培の実施	目標	()	()	(2品目)
	実績			2品目試験実施	2品目試験実施	
【参考指標】ハウスの建設完了	目標	()	()	(1棟)	()	()
	実績			1棟整備		
【R4成果目標】試験栽培により確立された栽培技術について、営農指導を受けた村内の農家の割合 80%以上	目標	()	()	()	()	(80%)
	実績					

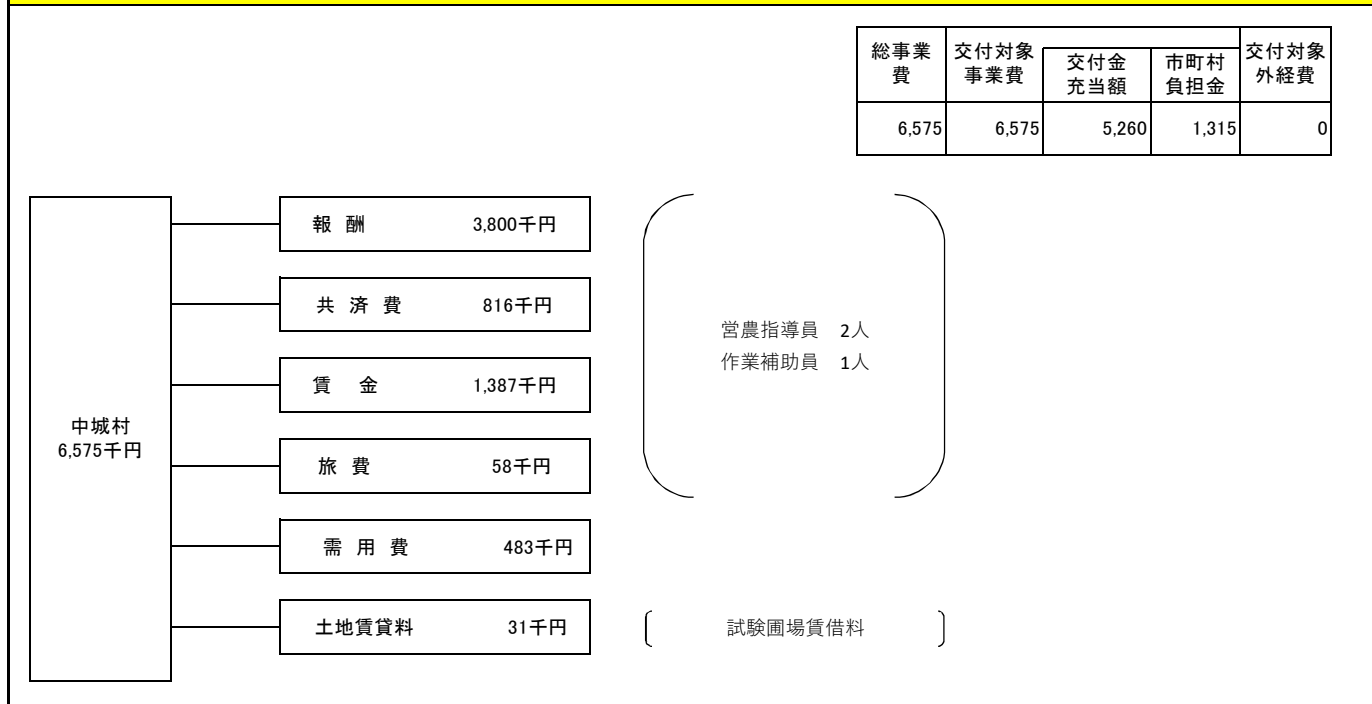
進捗状況説明
当初の計画通り、島ニンジンと島ダイコン2品目の試験栽培を行うことができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	(試験栽培) 水溶性のテープに等間隔で種子が封入され、種まき作業が効率化できるシーダーテープを使用した島ニンジンの種まき試験について、発芽率の高い地表面からの種まき深度を確認することは出来たが、発芽率はその年の気象の影響を受けやすいため反復試験を行う必要がある。また、生産農家にシーダーテープを使用させ生産現場においての実証試験を行う必要がある。	(試験栽培) シーダーテープを使用した発芽率の高い地表面からの種まきの深度について、今年度の結果を基に反復試験を行っていく。また、生産現場においてもシーダーテープを使用した実証試験を行っていく。

今後の取り組み方針

(試験栽培)
島ニンジンの間引き作業の負担軽減に向けた播種方法の検証を引き続き行っていく。また、生産現場においても実証試験を行いその精度の調査を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位：千円)



資金の 使途の 流れ・ 点検 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 予定していた事業内容はすべて実施された他、活動目標・成果目標の達成状況を鑑みて予算規模は適切であったと考える。 ○ 不用額は事業費の1%以内であり適正な規模であった。 ○ 費用・使途は、業務完了時の検査において精査しており妥当であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	